

M-1

小學理科園發行之趣旨

251

740

小學校教科書

特48

568

小學理科園發行の趣意

小學教育に於て

實業趣味を養成するの急務なるは、實に世の定論

にして、

喋々するを要せず、而して現今小學校の教科目中、

實業思想の涵養

に最密接の關係を有するもの理科を描きて他に

求むべからざるは、

之れ亦深く論述するの要を見ざる也。されば理

科はその本來の教育的價值の大なるはもとより、特に之を現今時

勢の要求より鑑み來れば、此科教授の要益々重きを加ふると共に、

之が任に當るの士如何にその責務の大なるかを考察せざるべからず。

曩に文部省が理科用教科書を廢止し、其教材及細目の編成を各小學校長の撰擇に委ね、以て教授の範圍を自由にし、材料の取捨を任

明治
40 3 9
内交

意にしたるは、是れ理科そのもの、性質上普遍劃一的なる教科書を使用するの不合理なるを看破したる當然の處置にして、要するに教授上應用自在の妙味あらしめんが爲めに、教師の活動範圍を擴張したるに外ならざるなり。

爾來此科教授の研究は逐次その深きを加へ、如何にせば理科教授を最有効ならしむるを得るかてふ問題は幾多教育家の頭腦を悩ましめつゝある也、之れ實に教育上嘉すべき現象に屬す。蓋し教科書に據らざる理科教授にありては、學科の性質上是非とも土地の狀況に適切なる教授細目を編成し、且つ適當なる筆記帳を兒童に授くべきは理の當然にして、又之が解説用の圖畫を要するも亦事實也、事實の要求と當然の理由とは、素より是れを拒むべからず、而かもこれ實際教授の任にあるもの、等しく認むる所にして、誰か

また異議を挾むものあらんや。然りと雖若夫れ彼の獨斷的杓子定規によりて、東西相選ぶなく南北相同じき準教科用的筆記代用若くは筆記帳を用ひて教授するが如きものあらば、實に是れ理科教授の精神を没却し、教科書廢止の主旨に違背したるものにして、教育上決して不問に附すべきにあらざるや。知らずや、當局者が嘗て筆記帳防遏の通牒を發して、大に警戒を加へたるもの、之等幾多の悪弊を排除せんとするに存するを。然り、これ文部省が其本來の主義を擁護せんとする正當防衛の處置にして、誰か又その舉を怪むものあらむや。於是乎推理の順序として、教科書の性質を帯びざる劃一的ならざるものを以て、理科の要求に應ぜざる可らず。然れども茲に不劃一と云ふ、之れ果して若干の程度を意味するか、一學級若くは一學校毎に異なるべきか、將た一地方毎に異なるべきか、蓋し差異

の極限は一學級にあらん、然れども差異を極度に到らしむる時は即ち不統一の弊害に陥らざるを得ず。思ふに同一地方に於ては氣候風土を一にし生業物産を一にし自然現象及動植物亦大差なきが故に區別の單位を一地方となすを以て正當なりと信ず、即ち全國を數十乃至數百に區分して、其各地方に一、種特有の理科細目を作成す、べきもの也、即ち是れ教授の要旨に愜へるものにして、昨年六月開催の全國小學校長會議に於ける此問題に對する決議事項の如きは、實に此意に外ならざる也。弊堂茲に見る所あり、現今理科教授の趨勢を慨して、あらゆる弊害を根本的に矯正せんが爲に小學理科圖を發行せり、其の主要目的は次の四點にあり。

- 一、 普遍的理科教科書を廢止せる文部省の精神を貫徹する

- 二、 準普遍的教科書の滅絶を企圖する

- 三、 教材の選擇につきて教師の自由活動を幫助する

- 四、 理科の學習上必須なる圖畫を兒童に供給する

如上の目的に添はんが爲め、普く全國に亘りて師範學校附屬小學校及び教育會選定の細目を調査し、こゝに極めて必須なる小學校理科用圖畫凡六百枚を作製せり、先づ動植、生理、理化、自然現象等の普通なるものより各地特有の物産等に至る迄悉く之を網羅し、或は性質上より之を分解し、或は利用上より之を總括し、同一種類若しくは同一題目と雖、觀察の方面及材料相互の關係より多くはいづれも數枚に亘りて調製したるが故に、取捨選擇の範圍極めて豊富なるは論なし、而も斯道大家の嚴密なる校閱を経たるが上に、苦心經營を盡したる印刷の明瞭と美妙とは、兒童が審美的感情の涵

養に資する所決して尠少ならざるべしと信ず。

若し夫れ氣候風土を同うし生産物を一にし四圍の現象及動植物に大差なき一地方に至ては、例へば一郡數校等の連合編纂に係る細目の要求に應じて該筆記帳を作製し、若くは理科圖畫を調製して實際教授に活用するの道を講せんとす、即ち之れ本科教授の要求を充たし、現今理科教授に於ける焦眉の問題に答へんとする弊堂の微志に外ならず、要するに小學理科園は全國小學校理科材料の供給所也、不朽なる實物標本の貯藏庫也、故に土地の狀況四圍の現象に應じ、各細目によりて容易に、適切なる標本を列載したる筆記帳若くは筆記應用圖畫を作製するを得ん、若し夫れ申込の方法に關しては次の數項を一閱せられんを。

(一) 定價は各學年を通じ三千冊を標準とし二冊の紙數は四十枚を

限度としそれ以上に増加する場合には一枚二厘五毛の割にて増額す、三

千冊以上取纏め御注文の際は一冊十錢とし三千冊未滿は各學年毎五百冊を最低限度とし二割増とす(一冊十二錢)

(二) 本書は申込者の希望により各學年とも裝釘したるものと袋入一枚づゝの者筆記應用圖畫との二種に調製す、但し兩種とも定價に差違なし。

(三) 筆記欄は見本に添へたる如く十行と十二行と無罫のものとの三種の内何れにても貴需に應ず、紙質は繪畫見本の最初に添へたる四枚のものと凡て同質のものを使用す。

(四) 本書調製には約三十日の期間を要するを以て此際至急申込まれたきて。

(五) 販賣方法は該地方の國定教科書販賣店に於て取扱はしむ。

但し時宜によりては他の販賣店を以て之に代ふ。
 (六) 協同申込の際には各校別々に生徒人員御記入相成度事。

東京市日本橋區本銀町三丁目二番地

鍾美堂書店

大坂市南區鹽町三丁目六十九番屋敷

小學理科圖目錄

◎植物編

油菜	一	ばら	二五	桑	一九
油菜と大根	二	豌豆	二六	桑と其の害虫	三〇
油菜と蝶	三	豌豆	二七	桑と蚕	三一
櫻	四	豌豆、蚕豆	二八	桑と楮	三二
櫻	五	大豆、蚕豆	二九	楮	三三
櫻の花	六	蚕豆、れんげそう、苜蓿	三〇	楮、三桠、雁皮	三四
櫻の實	七	たんぼほ	三一	麥	三五
櫻の葉及幹	八	菊	三二	麥と麥稈	三六
八重櫻	九	さんぼうげ	三三	稻	三七
桃	一〇	有毒植物	三四	稻の病害	三八
桃の花	一一	春の有毒植物	三五	稻の病害	三九
桃の果實	一二	夏の有毒植物	三六	稻及其の害虫	四〇
梅	一三	秋の有毒植物	三七	松	四一
梅の花及果實	一四	あやめ	三六	松(一)	四二

一	松(二).....	四〇
一	竹.....	四〇
一	桐.....	四〇
一	漆、櫨.....	四〇
一	櫨と蠟.....	四〇
一	樟.....	四〇
一	けし、藥用植物.....	四〇
一	煙草.....	四〇
一	胡瓜.....	四一
一	胡瓜、瓜類.....	四一
一	蓮.....	四一
一	菱.....	四一
一	蓮根と百合.....	四一
一	百合.....	四一
一	百合と葱.....	四一
一	葱.....	四一
一	朝顔、晝顔、夕顔.....	四一
一	茄子.....	六〇
一	茄子と馬鈴薯.....	六二
一	甘藷.....	六二
一	馬鈴薯と芋類.....	六三
一	根菜.....	六四
一	にんじん、牛蒡.....	六五
一	玉蜀黍、甘藷.....	六六
一	甘藷、甘菜.....	六七
一	大麻.....	六八
一	纖維植物.....	六九
一	大麻と楮.....	七〇
一	大麻と綿.....	七一
一	草綿.....	七二
一	草綿と其の害虫.....	七三
一	燈心草.....	七四
一	七島蘭、いちび.....	七五
一	藍.....	七六
一	染料植物.....	七七
一	茶.....	七六
一	茶、茶梅.....	七九
一	秋の七草.....	八〇
一	秋の七草、鳴虫.....	八一
一	カビ、バクテリア.....	八二
一	菌類.....	八三
一	カビ、菌類(其二).....	八四
一	菌類(其二).....	八五
一	松茸類.....	八六
一	蕨、すきな、すきごけ、せじごけ.....	八七
一	シダコケ.....	八八
一	柿の花.....	八九
一	柿.....	九〇
一	柿と栗.....	九一
一	蜜柑.....	九二
一	梨.....	九三

一	林檎.....	九四
一	果樹と果實.....	九五
一	葡萄.....	九六
一	栗.....	九七
一	栗の花.....	九八
一	栗の果實.....	九九
一	花と虫及風.....	一〇〇
一	果實種子の分布.....	一〇一
一	種子の萌發.....	一〇二
一	植物の萌芽.....	一〇三
一	昆布、わかめ.....	一〇四
一	昆布、わかめ.....	一〇五
一	顕花植物類.....	一〇六
一	隠花植物類.....	一〇七
一	植物の分類.....	一〇八
一	苗代.....	一〇九
一	麥の刈入と稻の秧植.....	一一〇
一	果樹の刈込と接木.....	一一一
一	接木、挿木.....	一一二
一	果樹の手入.....	一一三
一	森林.....	一一四
一	森林の効益.....	一一五
一	造林.....	一一六
一	樹木の種類及利用.....	一一七
一	山林の樹木.....	一一八
一	植物體の含有物.....	一一九
一	常緑樹、落葉樹、紅葉.....	一二〇
一	植物の自術.....	一二一
一	植物の生態.....	一二二
一	植物の部分.....	一二三
一	莖と根.....	一二四
一	根.....	一二五
一	莖.....	一二六
一	葉.....	一二七
一	葉.....	一二八
一	根及莖の構造.....	一二九
一	植物の構造生理.....	一三〇
一	細胞.....	一三一
一	四季の自然界.....	一三二
一	春の自然界.....	一三三
一	春の野山.....	一三四
一	春の動植物.....	一三五
一	夏の自然界.....	一三六
一	夏の田野.....	一三七
一	夏の動植物.....	一三八
一	秋の然自然界.....	一三九
一	秋の田野.....	一四〇
一	冬の動植物.....	一四一
一	冬の動植物.....	一四二

此の他製版中のもの
 一苗床(一) 一食虫植物 一果實(柿、蜜柑、
 無花果、栗) 一藥用植物(除虫菊、人參、
 げんじしよ) 一植物の生理

◎動物編

一	狼と鹿	一	鼠、兔、栗鼠、むささび	一	一七
二	犬、猫	二	もぐら、蝙蝠	二	一八
三	猛獸類	三	もぐら、蚯蚓	三	一九
四	鹿と野獸	四	鯨	四	二〇
五	野獸	五	海獸	五	二二
六	偶蹄獸類	六	海の鳥獸	六	二三
七	牛	七	猛禽類	七	二四
八	牛と豚	八	鳴禽類	八	二五
九	馬、牛	九	燕	九	二六
一〇	馬、馬、豚	一〇	燕と雀	一〇	二七
一一	馬	一一	燕と保護鳥	一一	二八
一二	豚	一二	啄木鳥	一二	二九
一三	羊と豚	一三	保護鳥(其一)	一三	三〇
一四	羊	一四	保護鳥(其二)	一四	三一
一五	鼠附兎	一五	保護鳥(其三)	一五	三二
一六		一六	鳩	一六	三三

一	蛙	一	蜜蜂と蟻	一	六六
二	蛙	二	益虫	二	六七
三	鯉、鮒、金魚	三	蜻蛉と益虫	三	六八
四	淡水魚類	四	蜻蛉	四	六九
五	鯛、ひらめ	五	蜻蛉と蚊	五	七〇
六	鯉	六	蚊、蠅	六	七一
七	鮭	七	蚊、蠅、蚤	七	七二
八	鯉	八	蚜虫、蟻、瓢虫	八	七三
九	鱒	九	蟻、あぶらむし	九	七四
一〇	鱒	一〇	稲の害虫	一〇	七五
一一	鱒、鯉、鮒	一一	稲の害虫	一一	七六
一二	蝶	一二	毛虫	一二	七七
一三	白蝶	一三	天牛	一三	七八
一四	蚕	一四	害虫の變態(一)	一四	七九
一五	蚕、昆虫の變態	一五	害虫の變態(二)	一五	八〇
一六	蜜蜂	一六	鳴虫	一六	八一
一七	蜂の種類	一七	蜘蛛	一七	八二

珊瑚	100	生物の進化	105	動物の構造	110
珊瑚	101	動物分類	106	動物の防禦攻撃の器官	111
珊瑚、海綿、磯巾着	102	森林の適味方	107	此の外製版中のもの	
水中の動物の共同生活	103	林樹を保護する動物	108	鰻、鱒、鯰 一海の鳥獸 一蟹	
原生動物	104	林樹を害する動物	109	蠶動物の保護色及擬態	
◎鑛物自然現象編					
土壤	1	硝子	2	銅	3
岩石の崩壊	2	蠟石	3	銅、合金	4
岩石の崩壊と土壤	3	石灰石の採掘	4	銅と鐵	5
石英類	4	石灰、漆喰、セメント	5	鐵	6
岩石	5	瓦、煉瓦	6	鐵	7
火成岩	6	鑛物の産出	7	鐵	8
水成岩	7	水晶、寶石、石墨、金剛石	8	錫、鉛、亞鉛	9
建築石材	8	金剛石、寶石	9	合金	10
陶磁器	9	寶石と金銀	10	石炭	11
陶器及硝子	10	金、銀	11	石油	12
硝子製造	11	金銀、アルミニウム	12		

石油	12	海水	13	雪、露、霜	14
石炭、石油	13	海水の含有物	14	雪と水及梅雨	15
石炭、石油、化石	14	海水の温度と生物	15	雲	16
硫黃	15	地球の進化	16	雨、露、雲	17
海流	16	地球の構造	17	雪、露、霜、雲	18
氣象測候	17	鑛脈、鑛層、沖積層、洪積層	18	梅雨	19
太陽、地球、月	18	地球の成立	19	雷鳴と驟雨、虹	20
天體、四季晝夜	19	火山	20	水の作用	21
四季晝夜	20	火山と温泉	21	流水の利用	22
日蝕と四季晝夜	21	火山、温泉、地震	22	前世界の生物	23
日蝕、月蝕	22	火山、地震、海嘯	23	鑛物利用の沿革	24
月	23	地震、海嘯	24	人と自然物との關係	25
潮汐	24	温泉と火山脈	25	自然物、自然界と人類との關係	26
四季晝夜と月の盈蝕	25	温泉	26	自然物の利用	27
銀河、彗星、北極星	26	温泉、硫黃	27	人類の開化	28
海	27	水、雪の形状	28		
◎物理編					

三種の槓杆.....	一	給水.....	一八	熱の傳導.....	三五
衡器.....	二	毛細管、現象.....	一九	熱の傳導.....	三五
天秤、秤、滑車.....	三	水の壓力、水壓機.....	二〇	環流及輻射.....	三六
天秤、挺子.....	四	水の壓力、物の浮沈.....	二二	物の膨脹.....	三六
滑車.....	五	物の浮沈.....	二三	膨脹と對流.....	三九
滑車、軸車、齒車.....	六	水の變化、液體の性質.....	二三	物體の膨脹、寒暖計.....	四〇
齒車.....	七	水入とサイフォン.....	二四	寒暖計.....	四一
時計、振子.....	八	晴雨計.....	二五	空氣及風.....	四二
滑車、斜面、楔、螺旋.....	九	晴雨計.....	二六	風.....	四三
斜面、楔、螺旋.....	一〇	空氣の壓力、晴雨計.....	二七	沸騰、蒸發、蒸溜.....	四四
建築と器械の利用.....	一一	空氣の壓力、晴雨計、排氣器.....	二七	固體、液體、氣體.....	四五
重心、重力.....	一二	排氣器、吹子.....	二九	水の循環.....	四六
習慣性及反動.....	一三	ぼんぶ.....	三〇	汽車、汽船.....	四七
引力と慣性.....	一四	ぼんぶ、排氣機.....	三一	蒸氣機關.....	四八
物の落つる有様.....	一五	空氣の浮力と壓力.....	三一	發聲器、音響.....	四九
圓の運動.....	一六	輕氣球.....	三三	發聲器と蓄音機.....	五〇
水準器、水平面.....	一七	熱の發生及加熱.....	三四	發聲器、音の高低強弱.....	五一

聲帶附音の發生、高低強弱.....	五三	光の直進、屈折.....	五九	眼の補助器.....	八六
聲帶.....	五三	光の直射、鏡、凹凸鏡.....	七〇	寫真器械.....	八七
蓄音機.....	五四	光の反射、鏡.....	七一	幻燈器械.....	八八
音の發生、傳達速度.....	五五	光の反射.....	七二	寫真機、幻燈機.....	八九
音の發生、高低強弱、傳達速度.....	五六	光の反射.....	七三	寫真、幻燈機械.....	九〇
音の傳達速度.....	五七	反射と倒影.....	七四	眼鏡.....	九一
音の傳達速度と反響.....	五八	光の屈折.....	七五	磁石.....	九二
音の高低、強弱.....	五九	光の屈折.....	七六	磁石、電磁石.....	九三
反響と共鳴.....	六〇	光の屈折、三稜鏡、虹.....	七七	發電、電氣の二種.....	九四
共鳴樂器.....	六一	光の分散.....	七八	電氣の配布及誘起.....	九五
耳.....	六二	光の屈折とレンズ.....	七九	發電機.....	九六
耳.....	六三	レンズ.....	八〇	電氣の配布、感應、發電機.....	九七
耳附傳導、反響.....	六三	レンズ.....	八一	電氣の分配、感應、起電機.....	九八
耳と蓄音機.....	六四	虫眼鏡.....	八二	避雷、雷針.....	九九
耳の補助器、共鳴.....	六五	顯微鏡、望遠鏡.....	八三	電池.....	一〇〇
採光.....	六六	顯微鏡、望遠鏡、双眼鏡.....	八四	電池、電流.....	一〇一
光の直進.....	六七	眼の補助器.....	八五	電流計、電磁石.....	一〇二
光の直進、陰影.....	六八				

電磁石、電鈴……………	一〇三	電信機……………	一〇八	ダイナモ……………	一一三
電鈴……………	一〇四	無線電信機……………	一〇九	電氣燈……………	一一四
電磁石、電鈴、電信機……………	一〇五	電信機、無線電信機……………	一一〇	X光線……………	一一五
電鈴、電話機……………	一〇六	電車……………	一一一	電燈とX光線……………	一一六
電話機……………	一〇七	電車……………	一一二	鍍金……………	一一七
◎化學編					
燃燒……………	一一	酸素……………	一一二	石鹼……………	一一三
燃燒、酸化……………	一二	空氣の成分(其一)……………	一一三	石鹼と水の硬軟……………	一一四
燃料……………	一三	空氣の成分(其二)……………	一一四	石鹼とアルカリ……………	一一五
燃燒、燃料……………	一四	空氣中の混合物……………	一一五	溶解と結晶……………	一一六
燃燒、マッチ……………	一五	空氣の成分、酸素、窒素……………	一一六	水の成分、水素……………	一一七
燃燒より生ずる物質……………	一六	炭酸瓦斯……………	一一七	食鹽……………	一一八
燃燒と酸素製法……………	一七	發火と消火……………	一一八	食鹽と岩鹽……………	一一九
炭素……………	一八	發火、消火……………	一一九	鹽酸……………	一二〇
炭素の循環……………	一九	焰の構造……………	一二〇	鹽酸、硫酸……………	一二一
石炭瓦斯……………	二〇	飲料水……………	一二一	鹽酸、鹽化水素、漂白粉……………	一二二
石炭瓦斯と炭酸瓦斯……………	二一	軟水及硬水……………	一二二	鹽酸と鹽化水素……………	一二三

鹽酸と曹達……………	二四	硫酸、硝酸……………	二五	醱酵……………	二六
鹽素、漂白粉……………	二五	硝酸……………	二六	腐敗……………	二七
鹽酸とアルカリ……………	二六	硝石、火藥……………	二七	罐詰法……………	二八
曹達、漂白粉……………	二七	硝石、火藥、硝酸……………	二八	防腐、消毒……………	二九
曹達とアルカリ……………	二八	火藥……………	二九	食料品の腐敗及貯藏法……………	三〇
硫黃……………	二九	アンモニヤ……………	三〇	染色……………	三一
硫黃、火藥……………	三〇	硝酸銀と寫真術……………	三一	染色……………	三一
マッチ製造順序……………	三一	澱粉……………	三二	沃度の製法……………	三二
硫酸……………	三二	蛋白質、脂肪……………	三三	肥料……………	三三
硫黃と硫酸……………	三三	澱粉、砂糖、蛋白質、脂肪……………	三四		
硫黃と硫酸……………	三四	醱酵、腐敗……………	三五		
◎生理、衛生編					
人體の外部の構造……………	一	骨格……………	六	消化器……………	二
人體の構造……………	二	筋肉……………	七	消化作用……………	三
人體……………	三	筋肉……………	八	呼吸器……………	三
人體内部の構造……………	四	血液、血液循環器……………	九	呼吸器……………	四
骨格と姿勢……………	五	消化器……………	一〇	呼吸、排泄……………	五

排泄器	二六
排泄器	二七
皮膚	二八
皮膚	二九
人體の感覺機關	三〇
腦髓、脊髓	三一
腦脊髓及神經	三二
腦髓	三三
眼	三四
◎ 雜 編	
機械工場	三
珊瑚と石灰石	二
物質の循環	三
動植物の關係	四
農具一般	五
運動の補助器	六
船及其種類	七

視覺、聽覺	三五
味覺、嗅覺、觸覺	三六
衣服の原料	三七
食物の成分	三六
食物	三九
食物の調理	三〇
家屋土地の選擇	三三
家屋の種類	三三
家屋及通氣	三三

鐵砲	三八
衣服と染色	三九
家屋の構造及煉火と石灰	四〇

探暖、家屋	三四
探暖法	三五
新氣及暖室	三六
衣食住の公衆衛生	三七
夏の衛生	三六
流行病、傳染病	三九
消毒器械	四〇
冬の季候と人類	四二

普通教育研究會編纂

國定小學地理附圖

本書は文部省編纂の國定小學地理に基づき、高等小學生徒の參考用として編纂したるものにして、日本之部壹冊を以て一學年、二學年の生徒用とし、外國之部壹冊を以て三學年、四學年に充つ。●地圖は各地方毎に區分して二頁大の着色石版刷とし、加ふるに各地方毎に有名なる名所、古蹟及市街並等を寫眞版刷として圖示し、一見了得の便を圖りたり。●附録として各府縣名及面積、人口、官廳所在地、崎岬、灣、海峽、島嶼、半島、山川、湖沼、瀑布、郡邑、名所、物産等を表したり。●日本之部には特に各府縣毎に其府縣下の細圖を巻頭に添へ、郷土地誌習得の便を圖りたり。

國定練習用日本地圖

國定練習用外國地圖

百開は一見に如かず百見は一行に如かず、小學校に於ける地理教授に於ても確實なる思想觀念を發揮せんにには必ずや之をして實際に近からしめんことを要す之れ即ち白地圖を用ひて生徒各自に習せしむるの有効なる所以なり。本書は即ち之が目的に副はんことを期し、百六十萬及百八十萬の縮尺圖を用ひて紙質印刷に注意したれば幸に御試用あつて其眞價を諒せられんことを

和裝全一冊
菊判形金七錢
四六倍列形金八錢
郵稅金二錢

和裝全一冊
菊判形金七錢
四六倍列形金八錢
郵稅金二錢

日本之部全一冊
外國之部全一冊
定價各金十三錢
郵稅各金四錢

東京日本橋區本町三丁目(特電局番三百三) 鍾美堂 大阪市南區巽町三丁目(特電局番七百廿)

排泄器.....六	視覺、聽覺.....五	探暖、家屋.....高
排泄器.....七	味覺、嗅覺、觸覺.....六	探暖法.....五
皮膚.....八	衣服の原料.....七	空氣及暖室.....六
皮膚.....九	食物の成分.....六	衣食住の公衆衛生.....七
人體の感覺機關.....一〇	食物.....九	夏の衛生.....六
腦髓、脊髓.....二	食物の調理.....一〇	流行病、傳染病.....六
腦脊髓及神經.....三	家屋土地の選擇.....三	消毒器械.....四
腦髓.....三	家屋の種類.....三	冬の季候と人類.....四
眼.....四	家屋及通氣.....三	
◎ 雜 編		
機械工場.....一	鐵砲.....八	
珊瑚と石灰石.....二	衣服と染色.....九	
物質の循環.....三	家屋の構造及煉火と石灰.....一〇	
動物物の關係.....四		
農具一般.....五		
運動の補助器.....六		
船及其種類.....七		

高等小學生用參考書

普通教育研究會編纂

國定小學國史會圖

定價
 一年用金十三錢
 二年用金十三錢
 三年用金十三錢
 四年用金十三錢
 郵稅各冊金四錢宛

歴史を學ぶには、是非とも、時と場處と事柄とを、目に見るやうに知ることが肝要であります。ところが是れまで、それに都合のよい書物のないのは、手前どもが、疾うから遺憾と思つて居たことでありませう。それ故、今度、題號の通りの書物を發行して、高等小學校のお兒さんたちの御便利を圖ること、しました。此本は、各學年に分けて、全部四冊とし、一々、國定小學日本歴史に引き合はせ、年數を尺度で見せ、見通しの二頁を百年とし、年代に合はせて、御歴代の、天皇陛下攝政關白將軍などを、一目に見へるやうに書き込み、其の下には、其の時々々に起つた問題を書き加へ、其の上、必要な讀史地圖は、漏れなく、其の場處々々に挿み込み、猶、有名な人物の肖像あり、參考になる歴史書類は、總べてかき揃えてあります。故、時と場處と事柄との三つは、手に取るやうにあり、と、形の上には現はれて居るのであります。一たび此の本を披いたならば、たとへ文字の讀めぬ人にも、日本歴史の概要を知ることが出来る程であります。面白く日本歴史を學びたい人、容易く日本歴史を知りたい人、確かに日本歴史を覚えたい人は、是非とも、此の本をお持ちにならねばなりません。

東京日本橋區本町一丁目 鐘美堂 (特電本局三百番)
 大阪市南區鹽町三丁目 (特電東千七百廿番)
 東京日本橋區本町一丁目 鐘美堂 (特電本局三百番)

國定教科書參考書

高等師範學校教員

鈴木

靜先生監修

普通教育研究會編纂 ● 尋常科用

國定教科書 國語綴り方教授精案

和裝美本全八冊
 定價各冊金廿五錢
 郵稅各全金六錢

本書は、文部省編纂の國定教科書に基き、務めて(一)諸教科と統合的關係を保ち、(二)家庭並に社會生活の範圍と連絡し、(三)季節に應じ、(四)提出の時期を適切ならしむるの注意を以て、その材料を選定し、しかもこれを毎週の教授時間に配當し、その方法を丁寧に詳説し、以て本科教授の指針たるのみならず、これを手にする教授者にして、再び教案を起すの煩なからしめむことを期したり。

柿山蕃雄先生 松田 茂先生共著

黑板圖畫教科書

洋裝全壹冊
 正價金一圓
 郵稅金十錢

本書は各種の師範學校及び是と同種類の諸學校に於て課すべき黑板圖畫の教科用書に充てんことを主とし、兼て小學教師の講習並に自習用に供せんがため著者多年の實驗に基づき黑板畫の意義・目的・要旨・價值・用具並に其使用法・姿勢・形式等を始め描寫の種類・練習の方法・練習畫の説明及其應用等の各章に分ちて懇切周到に説述し、終りに練習圖畫百四十餘頁を添え一見自由に應用し得るの便を圖りたれば實地教授の任にある諸君幸に一閱其眞價を諒せられんことを。

東京日本橋區本町一丁目 鐘美堂 (特電本局三百番)
 大阪市南區鹽町三丁目 (特電東千七百廿番)
 東京日本橋區本町一丁目 鐘美堂 (特電本局三百番)

好評嘖々 ● 全部完成

六大教授監修 ● 普通教育研究會編纂

尋常教授日案

学年	冊数	定價	郵税
第一學年用	全十二冊	定價金一圓廿錢	郵税金二十錢
第二學年用	全十二冊	定價金一圓廿錢	郵税金二十錢
第三學年用	全十二冊	定價金一圓廿錢	郵税金二十錢
第四學年用	全十二冊	定價金一圓廿錢	郵税金二十錢

各學年 各十二冊
一冊定價 金一十錢
御注にも適宜
御注文に應ず

本誌は教科書の活用を目的とし、尋常小學校教授の統一一致を圖り、且つ國定教科書を敷衍したるものにて、本書が三十八年度に於てこれを出し、大に好評を博したるものなり、今や各學年共第一巻より第十二巻まで全部納入として揃へあれば、何時にても需めに應ずべし。

本誌の内容

- 一、本誌は論說教授日案、中央公文質疑應答の五部に分てり。
- 一、論說、教育上新なる學說を紹介し且つ教育界に於ける時々の出來事及び直接緊切なる事項につきて論述せり。
- 一、教授日案、尋常小學校の全教科、修身、國語、算術、體操、唱歌、裁縫、手工に於ける日案を施し、以て各教科の統一一致を圖り、且つ國定教科書を敷衍し並に批評をも加へたり。
- 一、中央公文、教育上に關係せる日々の法令及び叙任辭令等を記載せり。
- 一、質疑應答、日案につきての質疑を適宜の欄に於て應答せり。

●注意 附録として各學年毎巻に應用黑板書を掲げ且つ第十巻よりは每巻に左の附録を添付せり。附録は何れも百廿頁以上にして教育家の必讀すべきものなり。

- 第一學年 明治三十八年教育史 第二學年 教育家寶典
- 第三學年 明治教育史 第四學年 外國小學校教科書

實業補習學校教科書

公德養成 國民新讀本

井上哲次郎先生校閱 普通教育研究會編

和裝美本全一冊
定價金二十五錢
郵税金六錢

本書は國民の公德養成を目的とし國民須知の事項を叙述せるものにして、教育勅語の趣旨を奉戴し、かつ帝國教育會より文部省に提出したる公德養成案を參考し、なほ文學博士井上哲次郎先生の周到なる校閱を経るものなり。全編を玩具と遊戯・義務教育・小學生徒の公德・中學生徒の公德・經濟上の公德・公德の組合・忠勇と公德・法官の公德・義勇奉公・公民と公德・議員の公德・公德の制裁の十二章に分ち、而して二三の假設的人物を中心とし、公德に關する各般の事項を巧に網羅して、按排直しさに合ひ、平時に於ける公德は勿論、戰時及び戰後に於ける公德を詳説し、かつ實業獎勵のため、實業上の事柄を記載するにつとめたり。説くところさばめて適切にして、一々肯綮にあたり、彼の個々分離して脈絡を失ひたる乾燥無味の著と日と同じうして論ずべきにあらざるなり。行文は流暢にして口語體により、平易明白を旨として理解に便せしめたり。書中また種々の挿繪を加へ、かつ傍訓を施せり。讀み行くまゝに自ら公德の生手本に接するが如く、非常の感興にうたれつつ、公德の實踐を誓はしむるに除りあり。本書は實に公德養成の好指針にして、何人も必讀すべき良師友なり。忠愛なる我が帝國の國民は、すべからずこれを精讀し、偉大なる精神的國力の培養に公德修養に資せられんことを。

農學士 今村猛雄先生 文學士 矢野道雄先生共編

實業補習 初等商業教科書

和裝全二冊
定價各金貳拾錢
郵税金四錢

東京日本橋本町三丁目 東電特話局三百番 鍾美堂發行
大阪南區區三丁目 東電特話局七百廿番

東京日本橋本町三丁目 東電特話局三百番 鍾美堂發行
大阪南區區三丁目 東電特話局七百廿番

實業補習學校教科用書

商業學士 田尻常雄先生 文學士 矢野道雄先生共編

實業補修 初等商業教科書

和裝全二冊
定價各金貳拾錢
郵税金四錢

文學士 矢野道雄先生 工學士 大石良輔先生共編

實業補修 初等工業教科書

和裝全壹冊
定價金貳拾錢
郵税金四錢

林學士 東郷直先生 農學士 富益良一先生共編

實業補修 初等山林教科書

和裝全壹冊
定價金貳拾錢
郵税金四錢

文學士 矢野道雄先生 大津水産學校長 羽生辨之進先生共著

實業補修 初等水産教科書

和裝全壹冊
定價金貳拾錢
郵税金四錢

東京日本橋區本町三丁目 (番百七千東話電特) 町銀本區橋本日京東 (番百七千東話電特) 行發堂美鍾

農業教育教科用書參考書

帝國農林大學助教授 農學士 矢野儀七郎先生編

小學農業讀本

和裝美本全二冊
定價各冊金十五錢
郵税金四錢

本書は斯學に堪能なる矢野儀七郎先生が高等小學校農業教科書として編纂せられたるものにして、組織よく整ひ、分量正しきを得、程度、順序またそのよろしきにかなへり。文章平易にして讀みやすく、殊に教材の選擇、配列は、深く注意を加へられたるものにして、すべて教育學の主義に則れり。實に本書は農業に關する普通の知識を得しめ、且つ農業の趣味を増し、勤勉、利用の心を養ふに適切なる良教科書といふべし。

農學博士 南 鷹次郎先生 農學士 渡部太郎先生著

最新農業通論

洋裝上製全壹冊
定價金九十錢
郵税金十錢

本書は、高等小學校に於ける農業科教員の參考に資し、併せて農業補習學校教材の資料に供せんが爲に、著者が多年實地教育上の經驗に基き、農業初等教育上必要なる事項は、細大洩さず、説明は極めて平易懇切を務め、記事は極めて精確肯綮を務め、最も最近なる例證を舉げ、尙多くの繪畫を挿みて之が解説を助けたる等其用意の周到なる、他に其比を見ざるべし。殊に經濟上より見たる農業に對して、在來の書が多く言及せざりし所を、遺憾なく説示せられたれば實に前記兩科學校の參考書たるに止らず、各種農業學校の教師・生徒・一般農業者・農事行政に當れる官吏等の、必ず一讀を要する良書なり。苟も我が國農界に對して、多少の趣味を有する士は、宜しくこれを繕きて、時機に後れざらんことを務むべきなり。

東京日本橋區本町三丁目 (番百七千東話電特) 町銀本區橋本日京東 (番百七千東話電特) 行發堂美鍾

文部省檢定英濟語教科用書

東京市教育會序 故博言博士イーストレーキ先生著
小學英語會話讀本

本書は、さきに東京市教育會が市内小學校教員のために、英語講習を開かれたる際、講師イーストレーキ氏に囑して、編纂せられたるものなり。氏は附屬に精進のめならず、久しく我國にありて教育の業に従事し、深くわが國の少年學生の事情に通じたれば、本書の真好なるは、編纂者その人を得たるを見るも、この書を用ひたる講習會の、成績の善真にして、大に利益ありしことに感するも明かなり。この書により、能く編纂者の精神に則りて、教授の方法を誤らずんば、小學校に於ける英語科教授法を一變するも、また明しがたきにあらずなり。

岸本立齋英習字帖

本館發行以來火に世の好評を得し各地の中等學校高等女學校、高等小學校英語科教科書に採用せられたり。茲に亦本年より東京府下高等小學校英語科教科書として採用の榮を賜はりたり。左に本館に於ける立一字體附漢字にして、讀み易きこと。二母が易く、書き易く、從つて運筆の速なること。三身體の姿勢自然なるを得て、購取に適すること。四以上の三種又と矛盾ござる限りに於て美術的なること。

新體英語會話帖

從來我國に於て最も流行せしものは、スペンサー會話。並に加用書體及び一際頑固にして明瞭なるロンクマンズの英語體なるが、本館は、これらを折衷し、その書體も速しく線の細大を與にせず、且つ頭字も餘りに華美なるものを用ひず、迅速に容易に習得せしむるに於て、一紙に行はしめしむるの趣旨に基きしものなり。今や本館は東京府の學校を始め、その他多くの府縣の學校に採用せられたるなり。

定價各冊金七錢
郵稅各冊金二錢

美本全六冊
定價各冊金七錢
郵稅各冊金二錢

美本全五冊
定價各冊金七錢
郵稅各冊金二錢

東京市本區橋本日本橋區南區三丁目三番(電話七百廿番) 鍾美堂發行

教材豐富說明新到極

本書の特色

本書は世にあり其撰を異全國各府縣に於て編成教授細目を基礎とし、各々六頁乃至拾貳頁にわたれる詳細な國定教科書との關係を詳述し、附記し、動物植物礦物、自然現象、物理、化學、生理、衛生、等あらゆる題目に別數百種、餘の精工美麗なる標本寫真版、模形圖を附し、其材料の豊富なる、新周到なる、加して、最良の材料の豊富なる、高等女學校、中學校、師範學校の教師及生徒等に向て、必須不可缺の最良著

普通理科教授資料

樋口勤次郎先生
濱島幸次郎先生
矢島喜源次先生
共著

洋裝上製全貳冊
上卷壹千八百〇六頁
下卷壹千三百六十頁

定價 上卷金參圓
下卷金貳圓
小包料 二冊金參拾錢
臺灣 小包料金五拾錢

東京市本區橋本日本橋區南區三丁目三番(電話七百廿番) 鍾美堂發行

欠

MISSING

アブラナ

六

理科 教科 授 資 料

アブラナ (油菜は、漢名藝莖にして、わが邦の古名は、オチ或はウチなり。この古名あるにより、古來わが邦にありし作物なることを知る。物の名の研究も、理科に間接の利益あることかくの如し。これを油菜と名づくるは、種子より油を搾取するによる。又その種子をナタネと名づくるにより、この植物をナタネともいふ。俗にこれをナノハナと稱し。尋常小學讀本にもまたこの名を用ひたり。

油菜の種子より油を搾取することは、貞觀の頃に始まるものにして、その以前には、たゞこの嫩葉を食用に供せしに過ぎずといふ。油の需用は石油のために壓倒せられて、明治維新後、漸次減少し、隨ひて、油菜の栽培も、大いに衰へたれども、近年工業の進歩に伴ひ、この油の需用又々増加して、油菜の栽培も、再び盛ならんとす。近江攝津等に到れば、數町歩の田圃に滿地黄甕を敷きたるが如きところあり。全國の耕作段別は、およそ十六萬町歩にして、菜種の産額およそ一百二十萬石に達し、これより油を搾取すること、およそ二十四萬石なり。(油につきては、終に記事あり。)

花 この花は萼は、四片より成り一つづつに離れ、下部や、囊状をなし、淡緑黄色

ア ブ ラ ナ

にして、脱落しやすし。花冠も、四つの花瓣より成りて、萼の内側にあり、花瓣と萼片とは、互にその間隙を塞ぎ、共に内部を覆ふ。この花瓣の排列する有様は、兩々相對して、十の字状をなすがゆゑに、かゝる花を十字花といふ。花瓣は、倒卵形にして、鮮黄色なり。いづれの花にても、萼花冠を總稱して、花被といふ。萼花冠の區別なき場合にも、これを花被と稱すれども、また特別の名稱なきにあらず。たとへばアマメの如きを花蓋といふの類なり。この花被は、花の内部を保護するに止り、花の大目的を達するに緊要なるものにあらず。ゆゑに花被を、花の保護機關といふ。

花被の内部に、六個の雄蕊ありて、その四個は長く、二個は短し、かく、四長二短なる雄蕊を四強雄蕊といふ。雄蕊の所には、蒴ありて、手を觸るゝときは黄色の細粉粘著するを見るべし。之れを花粉といふ。

雄蕊の中央には、徳利状のものあり。これすなはち雌蕊なり。雌蕊の本の太き部分を子房といふ。種子は、この中に生ずるなり。

なほ仔細に觀察せば、雄蕊の間々に、一つづつ濃緑色の球あるべし。この球は、甘味なる蜜を分泌するものにして、これを蜜腺といふ。その蜜は、昆虫のもつとも嗜好する食物にして、蝶などのこの花に集り來るは、これを吸はんがためなり。

七

香氣は、一種の揮發油にして、花瓣より分泌せらる。この香氣と色とは、昆虫を誘引するに必要なるものなり。

果實 油菜の果實は蒴の一種にしてこれを長角と名づく。乾燥すれば下部より兩側に裂開して種子を出だす。蒴とは果實の成熟の後乾燥して裂開するものをいふなり。

十字花科植物の果實を角といひ角の長さを長角といひその短きもの(例へばナヅナ)を短角といふ。

根・莖・葉 根は多少紡錘狀をなし、これより數多の細根を出だす。紡錘狀なるは主根にして細根は支根なり。多くの植物には、この主根支根の別あり。油菜の主根は、多肉にして、多量の養分を貯藏す。すべて根は、植物を地に固定し、かつ地中より養分を吸收するものにして、地上部の繁茂する与否とは、根に關すること極めて多し。

莖は、草質にして、花さき實を結びてのちは、根と共に枯死す。されど、莖の生育二ヶ年に跨がるにより、これを二年生草本といふ。草本と木本とは、明瞭なる別あるにあらざれども、莖軟にして、一回開花結實する後は、少くとも、その地上部の枯死す

るものを草本と名づけ、莖硬くして、多年枯死せざるものを木本と名づく。

葉は種々の形をなす。根際なるは、多少缺刻を有して、筵形をなし、やゝ上部なるは、長卵形等をなし、莖頂に近きものは、披針形等をなし、いづれも多くは、その基脚が耳形をなす。すべて、この葉の如く、縁邊に、鋸齒缺刻なきものを全邊葉と名づく。

またこの葉の如く、葉に葉柄もしくは托葉なきものを不完全葉と名づく。完全葉とは葉身葉柄及托葉の三部を有するものをいふ。

結實 アブラナの雌蕊を取りて、その頭を檢すれば、幾分か粘氣ありこの部を柱頭といふ。雄蕊の蒴熟すれば、破れて中より花粉を出し、これが粘氣ある柱頭に附着す。然るに、この花粉は、柱頭の粘液に養はれて、花粉管といふものを生じ、次第に伸長して内部に侵入し、つひに子房内の胚珠に達し、これにその内容物を與ふ。これを受精作用といふ。胚珠はこゝに於て成熟し種子を生ず。

ことに、不可思議なるは、吾人の眼には、何れの花粉にても等しく結實作用を完うするがごとく見ゆれど、その實はしからずしておなじ花の雄蕊に生ぜし花粉よりも別の花の花粉によりて受精する方遙に完全なる種子を生ずること是なり。即ち甲の花の花粉が甲の花の柱頭に觸るとも、よく結實せしむること能はず、却て乙

の花の柱頭に附着すれば、よく發育して、結實を完からしむるを得ることこれなり。かゝる次第なれば、いづれの植物も、それぞれ方便をつくして、自花の花粉を他花に送り、他花の花粉を自花に取り、雙方完全の結實を遂げんとす。油菜にありては、花底の蜜腺より甘き蜜を分泌し、以て昆虫を誘ひ、昆虫が、甲花より乙花に、乙花より丙花に飛び移る際、その體に花粉をつけ、これを傳達せしむ。昆虫は、もとより植物の結實をはかる念慮あるにあらず、されども一意美味を求めんとして知らず識らず花の繁殖を助くることまことに自然の妙機といふべし。

花の目的 花は、かくして結實を遂げ、以て同種の植物の繁殖をはかるを目的とす。花にして、結實することなくば、多くの植物は、久しからずしてその種を絶つべし。ことに油菜の如きは、全く種子にて蕃殖するのみなれば、花はこの植物にとりて、實に大切なものなり。花のうちにも、雌蕊と雄蕊とは、結實に直接の關係を有するものにて、これは、もつとも、大切な部分なり。ゆゑに、この二つを、**花の緊要機關**と名づく。

油菜は、莖頭に數多の花をつく。數多の花の花梗は、莖の上部なる花軸より、總をなして出づ。すべて花の花軸に著く状態を**花序**といひ、かくの如き花序を**總狀**と

いふ。總狀花は、下部より次第に花さきて、上部に及び、成長旺盛ならんには、無限に花をつくべし。ゆゑに、又無限花序ともいふ。無限花序なるがゆゑに、油菜の花は、下部に果實を結ぶのちも、上部に花さき、花と果實とを同時に研究するに便なり。

油菜の同類 十字花をつくる植物は、みな油菜の同類にして、これ等を總括して、十字花植物といふ。食用に供せらるるもの多し。

十字花植物の主要なるものを擧ぐれば

○ダイコン(蘿蔔)ミヤシゲ、ネリマ、は尤普通に栽培せらる。サクラジマ大根は大なるを以て名あり。一個の重量數貫目に及ぶ者あり。二十日大根、三月大根、根細根大根みな食用として美味なり。近時舶來せるサトウダイコンは多量の糖分を含み、これより砂糖を製すべし。ダイコンにはデアスターゼと稱する醱酵素を含み居るを以て、澱粉質の食物と共に用ふれば消化を助くる効ありといふ。○カブラ(蕪菁)テンノウジカブラ、シヨウゴインカブラ等の種類あり。煮または漬けて食用に供す○ツケナ 山東菜、白菜、體菜、三河島菜等はその貴重せらるるものなり○ミヅナ、コマツナ等また早春の好食料なり○ハボタン(甘藍)その葉重なり巻きて恰も牡丹花のごとし、煮または酢に浸して食ふべし○カラシナ

理科教授の最良參考書

山口縣師範學校教諭兼主事宮澤甚三郎先生
新潟縣師範學校首席教諭宮坂芳太郎先生 共著

小學理科教材他教科の關係

全一冊
定價三十錢
郵稅六錢

著者の一人は先年高等師範學校研究科を卒業して現に主事の職に在り、一人は同校理科を卒業して現に教頭の職に在り、山口縣師範學校附屬小學校が近時全く其の面目を改め、新潟縣師範學校亦然りと其の世評、其原因一ならざるべしと雖、兩氏の手腕亦與りて少からざらん本書は實に兩氏の力を合せて作られし者にして其特色の一二を擧ぐれば

第一、教材は全國各府縣に行はるゝ多數の理科教科書の教材を網羅したれば、如何なる府縣、如何なる教科書を用ゐらるゝ地方にも適用して毫も不足を感ずる事なし

第二、理科教授をして極めて經濟的に進行せしめんには、教師は兒童既有的の知識を得せんこと最も必要なるは勿論なり、本書は著者が多年の經驗により極めて巧妙なる方法を以つて各題目につき兒童既有的の知識を一々指示したれば本書を利用せば多くの教材は確に二分一の時間を以て優に教授し得べきなり

第三、本書は卷末に模範教案例を添へ事實の上より是を證明したり

第四、通俗講談資料并ニ専門的知識の手引として小學校教員諸君の前へ提出したり

第四、本書の要目左の如し 索引、他教材との關係、彙表、本書を利用したる各種類の緒言、理科教授の方針、模範教案例

若し夫實地教育家諸君が本書を利用せらるれば定めて從前の教授の極めて不經濟的なりしを悟らせらるべく、職に視學の任に當らるゝ諸君が本書を利用せらるれば一目して教員の勉不勉を正確に鑑別し得べし

東京日本橋區本町三丁目 鍾美堂發行
大阪南區鹽町三丁目 (長話電話七千七百廿番)

新斬な暗射代用大掛圖

東京高等師範學校教諭 兼 訓導兒崎爲槌先生編

教室用鑄日本全圖

壹軸 鑄七尺二寸
橫七尺八寸
成價 四圓五十錢

附日本形勢全圖

壹軸 鑄三尺九寸
橫三尺貳寸
定價 金一圓

地圖は實に地理教授の出發點にしてまた終局點を爲すものなり。然るに從來發刊せられし幾多の地圖を見るに、未だ教室用地圖として始ご適當なるものなきは地理教授上の一大缺陷と云ふべし、今茲に斯道に堪能にして經驗深き兒崎先生の指導を受け、從來嘗て世に顯はれざる工夫を凝らし、精確・適切なる地圖を出すに至りしは弊堂の光榮とする所なり、その印刷の鮮明用紙表装の堅牢なるに至りては恐らく他に、その比を見ざるべし。

本掛圖は六十萬分の一の縮圖を用ひ各分圖共方向を同一にし且つ全比例尺の新領土標本を加へたること

地形は、農商務省の地形圖によりたれば、精確無比なること。

大體を地勢圖となし、自然的區劃を本體とし、行政の區劃を副となししこと。

配色には、特に意匠を凝らし土地の高低・地域等を一目瞭然たらしめしこと。

縣界・鐵道線路・都會港灣・山嶺等の符號には、特殊の意匠を凝らしたること。

都會・港灣等の符號は、別に切抜き置き、必要の場合に貼附するの便を興へしこと

附屬日本形勢全圖(物圖)は大なる別軸として他學課に應用自由の便を計り尙別に白地圖壹葉添附せしこと。

東京日本橋區本町三丁目 鍾美堂發行
大阪南區鹽町三丁目 (長話電話七千七百廿番)

251
740

好 評 嘖 々

東京府立第三高等女學校教諭 長尾松三郎先生 共編
東京高等師範學校教諭 鈴木靜先生

尋常小學讀本教授用書

東京府立第三高等女學校教諭 長尾松三郎先生編

高等小學讀本教授用書

本書は著者が國定讀本につき嶄新なる學說と、周到なる經驗とに基き、國語教授の原理より演繹して、その方法に及び、精細周到なる注意を以て、各課毎に該教授の主眼とすべき點を明にし、必要なる準備を指示し、その方法を懇切に詳説したるものにして、眞に教授の參考となり、指針たるに適す。この書一たび出づるや、大に世の教育者の好評を蒙り、而して斯界に貢獻することを得つつあるは弊堂のよろこぶところなり。

和裝美本全八冊
各冊定價金三拾錢
各冊郵税金八錢

和裝菊版美本
各冊定價金卅五錢
各冊郵税金八錢

一三五九
各課の形式及び實質目的。
教授の準備及び豫備教授。
毎時間の主要字句並に註釋。
内容上の解説。
一課の統括教授。

二四八
他教科との聯絡。
毎時間の材料配當。
每章句につきての注意。
各時間の練習應用。

明治四十年三月三日印刷
明治四十年三月七日發行

(非賣品)

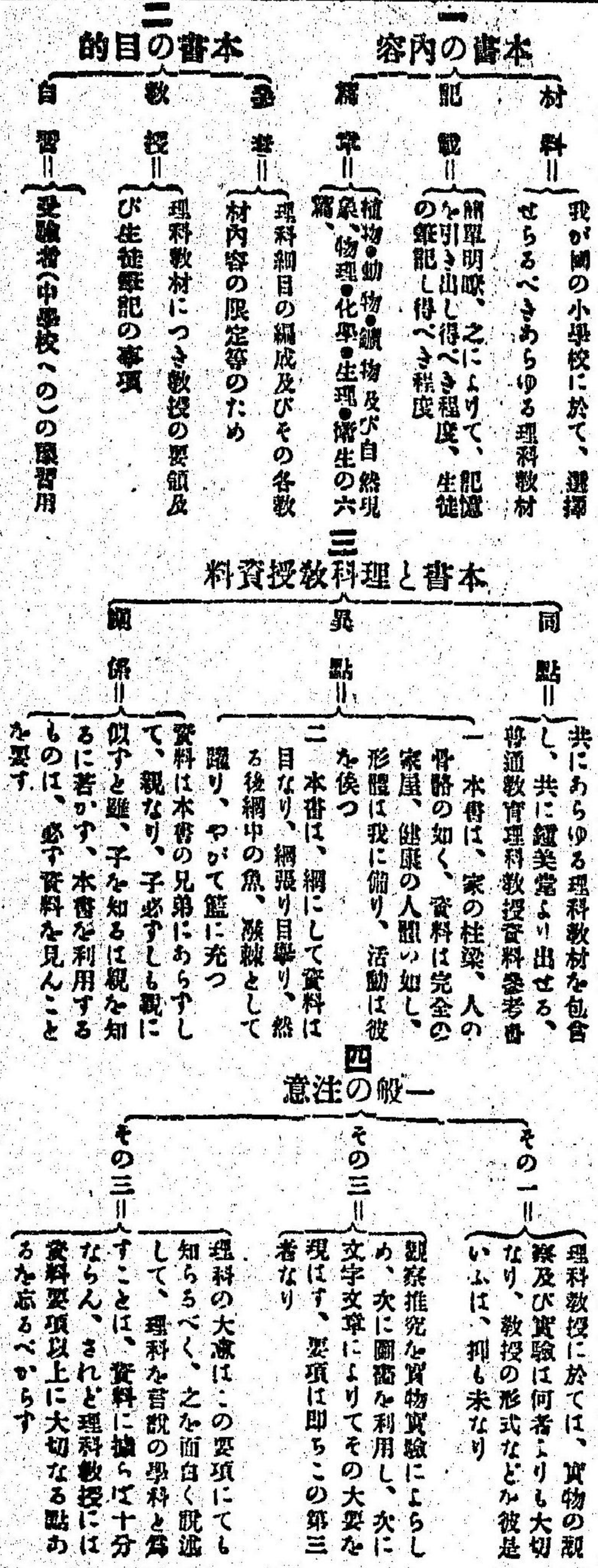
發行所 東京市日本橋區本銀町三丁目二番地 福岡元治郎
發行所 大阪市南區鹽町三丁目六十九番屋敷 鈴木美堂
發行所 東京市日本橋區本銀町三丁目二番地(長電話本局百三番)
發行所 大阪市南區鹽町三丁目六十九番屋敷(長電話東千七百二十番)

發行所 東京市日本橋區本銀町三丁目三番(特電話本局一〇三)
發行所 大阪市南區鹽町三丁目三番(特電話東千七百二〇)

普通教育研究會編纂

小學校理科教授要項

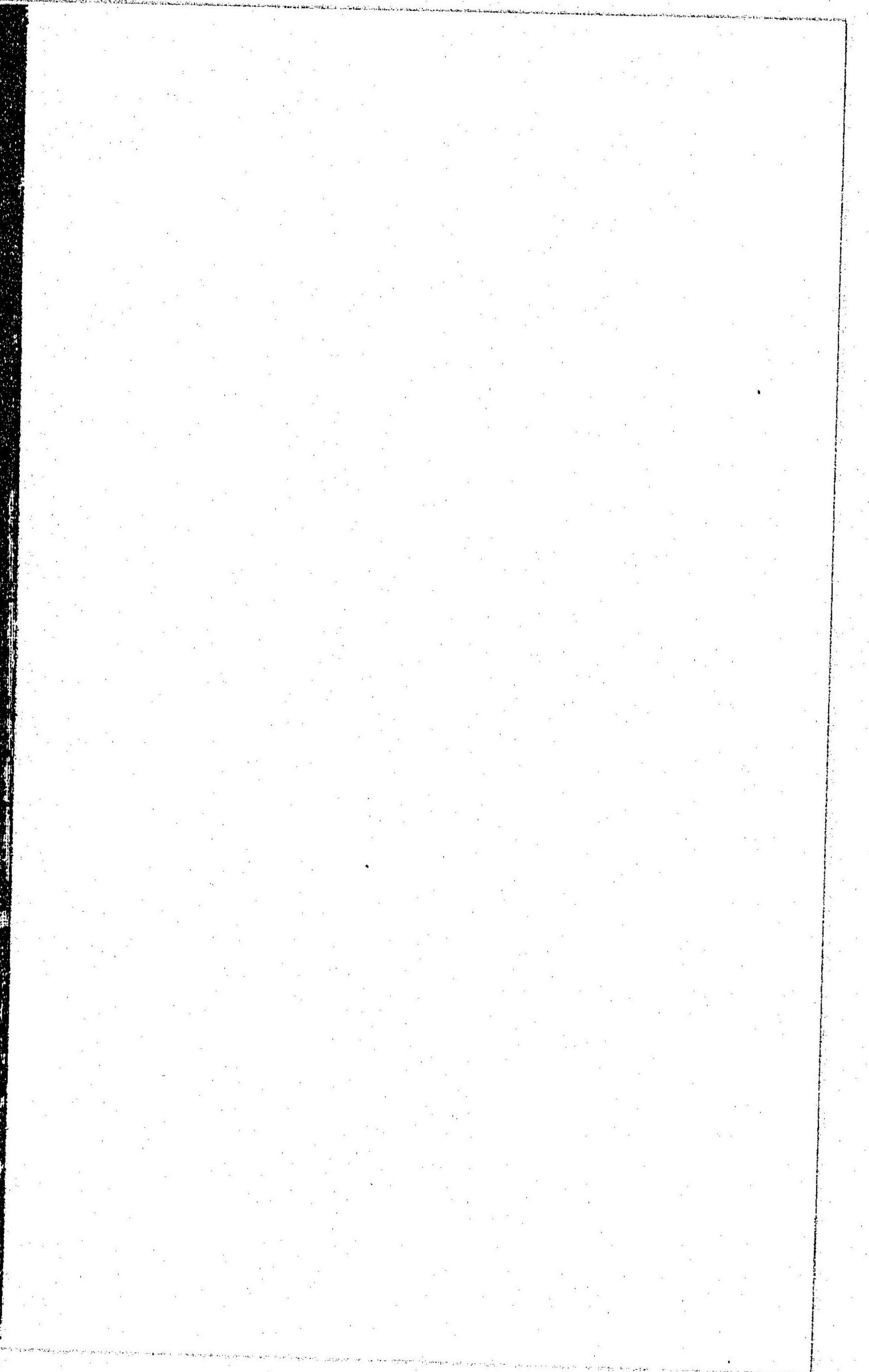
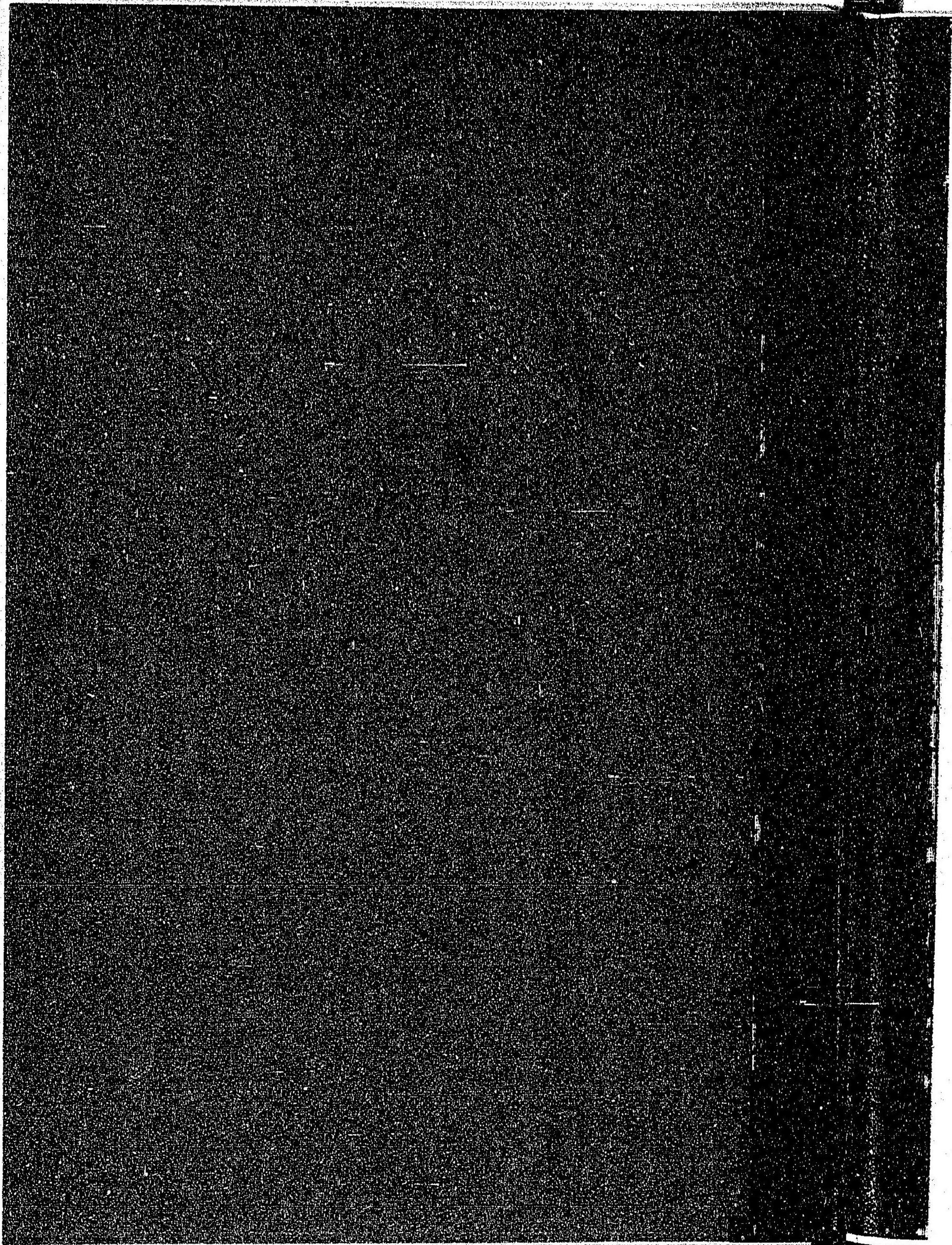
菊判形假洋裝全一冊
定價 金五十錢
郵税金 八錢



發行所

東京市日本橋區本銀町三丁目二番地
大阪市南區鹽町三丁目六十九番屋敷

鍾美堂書店



8
8

小學理科園發行之趣旨

国立国会図書館

052828-000-1

特48-568

小学理科園發行之趣旨

鍾美堂

M40

CAA-0089

